

# 施設や 設備から 見る消防団



**分団の器具置場（詰所）**

災害時に消防団の集結に必要なスペースを有し、消防団車両や各種資機材を格納しています。



**器具置場内の会議室**

通常は団員の会議室として使用しています。大規模災害や火災で被災された方の一時避難場所として利用することもあります。



**消防ポンプ自動車**



**小型動力ポンプ付積載車**

これらの車両は、消防団員が災害現場に急行する時のほか、各種の警戒や広報活動を行う時に使用しています。消防ポンプを内蔵または積載し、火災時の消火活動に威力を発揮します。また、赤色灯やサイレンを装備し、緊急走行を可能としています。



**各種資機材**

これらの資機材は、主に震災時に機械が使えないような場所で破壊作業に使用します。



**小型動力ポンプ**

上記車両に積載されているB-2級の小型動力ポンプは、遠方へ大量に放水できます。ポンプ自動車が進められない河川などから水を吸い上げて放水する時に有効です。

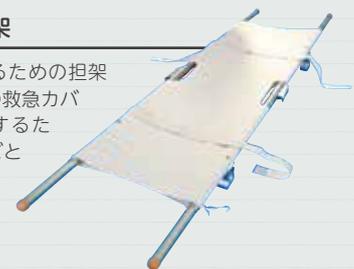
**ホースバッグ**

ホースバッグには、消防用ホース2本とホースの先に着ける管そう1本が収納しており、ホースを迅速に延長することができます。



**折りたたみ式担架**

傷病者を移動させるための担架や手当をするための救急カバン、傷病者を保護するための毛布を各分団ごとに備えています。



**投光器**

災害現場や警戒場所で採光用として使用します。ライトはキセノンライトを使用し、持ち運びや角度の調節が自由にできます。発電機部分は、重量が12kgと軽量で約3時間40分の使用が可能です。



**トランシーバー**

災害時において迅速な消防団活動をするため配備され情報連絡に活用します。また、震災時には携帯電話の不通時にも連絡体制が確保され通信手段の重要な役割を果たします。



**防火服**

防火服は現場外套ともいい、火災現場などで活動する時に着用する服です。火災現場の炎に接近する場所で着用するので、耐熱性と機能性を重視して作られています。